

学校法人 埼玉福祉学園 埼玉福祉・保育専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方策

【平成30年6月28日実施】

平成29年度自己点検自己評価(平成29年4月1日～平成30年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		現状の取組状況	課題	今後の改善方策	委員評価	
		優れている:3 適切:2 改善が必要:1					優れている:3 適切:2 改善が必要:1	学校関係者評価委員の御意見
1 教育理念・目的・育人材像	1-1-1 理念・目的・育人材像は、定められているか	3		教育理念(建学の理念)養成目的、教育目標を文書として明記している。 学園の理念は普遍のものであるが、時代や環境の変化に合わせて学科のイノベーションを図っている。	特になし	特になし	2.8	・常に、様々な場面で、理念・目的・育人材像を意識して様々なことがおこなわれており感心しています。 ・学校完結ではなく、外部団体の評価や意見、考え方を積極的に取り入れていることで、人材の育成や教育方針などに大きな幅を持たせることになるので、大変評価あるものとする。 ・学校理念や目的、人材育成方針等について、教職員等がそれを周知、理解するよう努力を感じ、結果として、一定のレベル以上の水準を満たしていると感じます。また、地域や業界等との連携にも積極性を感じ、イベント等を通して地域や業界等のニーズや情報を収集し、学校運営や人材育成に繋げており、これが学校の特色にもなっていると思います。 ・高い志をもって理念を掲げ、人材を育てていこうとする使命感が見て取れる
	1-1-2 育人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3		教育課程編成委員会や実習指導者懇談会、実習巡回時のヒアリング等を通じて必要な人材像、カリキュラムを構築している。 東京都介護福祉士会、埼玉県介護福祉士会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県老人福祉協議会、さいたま市社会福祉協議会等と連携している。	特になし	特になし		
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3		LT2教育システム、MMPプログラムなど独自のカリキュラムに基づいた現場力教育を行っている。	特になし	特になし		
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3		事業計画は5か年で計画しており、また周知するための研修や会議等システムが存在する。	特になし	特になし		
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3		事業計画を5か年で作成、周知するための研修、会議がシステムとして運用している。 浸透度の確認としては、学園のパーソナルアンケートやONOMOミーティングなどがある。	特になし	特になし	2.8	・とりわけ、意思決定システムの取り組みには大きく共感でき、新しい運営の考え方という点では先駆的な取り組みだと思える。 ・埼玉福祉学園の学校運営全体として、学生へのきめ細やかな対応、例えば、障害等をもった学生への一人一人への細やかな対応を行っていたり、システム導入による効率化など新たな事へのチャレンジなど、とても良い学校運営が出来ていると感じる。それが故に、それに対応する教職員等のワークバランスについて心配するところではありません。現段階で特段気になるところはなく運営側も注意されているところと思いますが、引き続き、学校運営の質の向上と職員のワークバランスとの調和に留意されるようお願いします。 ・確りとした組織基盤が構築され、健全な運営がなされている。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3		チェック項目は全て事業計画に定めている。見直しは四半期ごと運営会議で行っている。	特になし	特になし		
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	3		理事会は年3回開催され、議事録も作成している。寄付行為も適宜変更している。	特になし	特になし		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3		組織図、職務分掌、会議日程は全て事業計画に記載して共有している。また就業規則も定められ閲覧できるようになっている。	特になし	特になし		
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3		学園本部による人材採用、給料規定が定められている。昇任、昇格も目標管理制度に基づき業務を点数化しシステムとして機能させている。	特になし	特になし		
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3		意思決定システム、責任者も事業計画に記載されている。	特になし	特になし		
	2-7-1 情報システム化に取り組む、業務の効率化を図っているか	3		AS400システムで広報～在学中～卒業後まで一貫した情報管理を行っている。 また近年ではipadによる出席登録を行っており、担任は学生の出欠情報を机上のPCで確認できるようになっている。 5月をデータプライバシー月と指定して、各PCのデータの適正化、不必要なデータ削除を実施している。	ipad入力のミスは減少している。新任講師、入力が不得意な講師向けの対策が必要である。	講師へのipad使用の勉強会、個別指導。		

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	教育課程編成委員会の規定を定め、それに基づいて実施している。	特になし	特になし	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・定めに従って、良く活動していると思われる ・レベルの高いあるいは素養のある職員の確保と育成に更に力を入れて欲しい ・学生を主体に置いた教育の在り方が読み取れる。PDCAサイクルに基づいたシステムの確立も伺えるため、時代の変化に即した教育の見直しに随時対応できることを感想として持った。 ・ニーズや今後の状況等をよく踏まえ、それに即する形でシステムの導入や取り組み等が出来ており、教育活動にも反映がされていると思います。 報告において教育部と事務部の統合や、教科のコラボのお話をお伺いし、これによる人材活用や効率化、多様性やイノベーションが想像されとても良い方法と感じました。しかし一方で、専門学校は専門性を学ぶ場でもありますので、その要素も大切にしつつ、新たな取り組みを進めていってほしいと思います。 ・教育機関として「人を育てる」という高い意識が感じられる。学生への愛情が根底にあり、信頼できる。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	教育指導要領(学生便覧)に全て記載している。	特になし	特になし		
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	教育課程編成委員会の規定を設け、学科ごとに年2回開催し、カリキュラム作成に活かしている。 講義・演習・実習は教育指導要領に記載し学生に説明している。 シラバス、コマシラバスも全ての授業で導入している。 学園グループの福祉教育分科会にて他校の成功事例を学び教育内容、方法、授業計画等の改善に活かす。	実習特に業界(施設)での実習の評価基準、評価のあり方については再度明確化する必要がある。	教務部長を中心に各学科で検討を進める。		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3	教育課程編成委員会のみならず、各種業界との行事、実習巡回を通じて業界の意見を取り入れている。	特になし	特になし		
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	キャリア教育ロードマップを作成し、授業や行事等体系だてた教育を実践している。	特になし	特になし		
	3-9-4 授業評価を実施しているか	2	前期・後期それぞれ1回学生による授業アンケートを実施している。	年1回講師面談にて授業アンケートの内容を講師へのフィードバックはしているが、時期や方法、その後の効果測定が課題。	オープン授業等、通常授業で効果測定を実施する。		
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	評価基準は学則で定めており、学生便覧に記載し学生への説明を行っている。 定期試験と小テストの運用で、日々の学習が成果に繋がるしくみとしている。	特になし	特になし		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	分野特性で対外的なコンテスト等はないが、卒業研究の内容についてはレジメを冊子にまとめてまとめている。	特になし	特になし		
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	取得目標資格は学生便覧に記載しており、また資格取得に向けて対策授業も行っている。 WEBでの国家試験対策も行っている。	特になし	特になし		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	3	国家試験不合格者への卒業後の支援は無料で行っている。	特になし	特になし		
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	講師契約は毎年更新し、そのたびに履歴書、資格取得の免許写し、実務経歴書も確認している。 教員の採用計画も事業計画に記載しており計画的な人事採用を行っている。	特になし	特になし		
	3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか	2	常勤職員については学園の研修、外部研修を通じて資質の向上に努めている。 学園グループの教育研究・研修期間(JESC)にて教育学会を開催し教職員の教育活動を支援している。	非常勤講師への研修が不足している。	講師会議の内容の見直し。非常勤講師向け研修会の実施。		
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	2	教務部長、学科長を中心に教員集団の資質向上に努めている。 FD研修の開催。	非常勤講師との連携についてはまだ課題があり協力体制が築けているとは言えない。	講師とのコミュニケーション方法のシステム化、研修会、勉強会の検討		
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	就職者率、内定率は目標設定している。学生の活動状況は職員のPUBで随時更新し情報共有している。就職行事も年間を通じて行っており、データも一元管理している。 模擬面接会を開催し、分野ごとの新しい就職情報や傾向をキャッチするとともに現在の学生の就職意識や特徴などを伝えるなど情報交換を行っている。	特になし	特になし	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験合格者を、全国養成課程卒業生平均88%を上回るように体制とプログラムを更に強化する必要があると考える。 ・平成29年度は介護福祉士科の就職者率100%でなくなったのは残念です。 退学+転科の増加も含めて、学生の質が変わってしまってきているのかと思う ・専門性に関する教育だけでなく、人間教育についても力を入れている様子が伺える。多様な事情を抱えた学生が増えている中、それに対応すべく努力も成されていることは大変すばらしい姿勢だと思える。 ・資格の取得率や卒後の働いている様子をお伺いしたり、身近で卒業生と一緒に仕事をしている中で、専門職として即戦力は勿論の事、社会人としてのマナーやコミュニケーション等についてもよく支援されていると感じます。 また、卒業後の学生支援についても、転職等にあ
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	資格ごとに合格率目標を事業計画で定めており、全国平均との比較をし、日々精査している。 国家試験対策研修会に参加し、国家試験対策授業、模擬試験、教科書教材等を見直しを図っている。	特になし	特になし		
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	2	卒業1年の離職調査を継続的に行っており、卒業生情報の集約に努めている。	卒業生の情報は元担任などの個人知が多く、情報共有やそれら活躍を学校案内等に出し切れていない。	情報共有のしくみの構築。		

5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	キャリアセンターと卒業学年担任とは定期的に会議を行い情報共有している。また、業務システム(AS400)及びPUB内でも活動状況を共有している。説明会の実施も業界と連携している。また就職活動マニュアルを作成しており学生指導している。	特になし	特になし	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援の良さを、学校の売りにしていると思うが、実際の対応件数や内容などの状況を機会があれば知りたい ・途中退学が近年増加しているのが残念だが、多くの教育機関と同様の状況だろう。 うつなどの精神疾患、発達障害などもあり、大変だろうが、早期発見、きめ細かい対応で少しでも減らす努力をして欲しい。 ・社会福祉士科の卒業生は、性格の良いひとが多く向学心もあり良いのだが、元々相談員指向であり、介護技術などほとんど学んでいないので、特養など高齢者施設での介護は大変で、就職には疑問をもつ。 ・在学中の学生は勿論の事、卒業生も含めた支援体制が出来ていると思います。また、保護者等への在学中の支援体制や状況報告についても、入学式の保護者会や、SNSなどを活用した活動状況広報等を通して、学生がどのような事を学んでいるのが可視化できるようにされている。 一方で、精神疾患の学生や非協力的な親など、学業に専念する為に必要な環境が十分ではない学生が埼玉福祉学園に限らず、教育機関全体で年々増えているのではないかと感じています。それに対応する教職員等のきめ細やかな対応が求められる一方で、他の学生に対しての影響や教職員の負担が気になる場所ではありますので、限られた人員や時間の中で大変とは思いますが、バランスに注意をして頂きたいと思います。 ・学校の学校たる根幹部だが、きちんと体制を整えており、保護者も安心であろう。信頼できる学校であると実感できる。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	2	退学数は開講以来数字で集約、分析している。また学生相談室を設置し連携している。 年1回のキャリアサポートアンケートにて個人の状況を把握し学生サポートに活かす。 合理的配慮の実施や研修を実施して一人ひとりの課題に対応している。	退学につながる問題発見は、早期からできていたが問題に対する適切な対応とその遅れがあった。	問題を抱える学生の情報を学科・教務・関連部署で共有し、一人ひとりに合わせた、解決プランの作成と実行スケジュールを立て会議等で定点チェックをする。		
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	専任カウンセラー1名と非常勤カウンセラー2名を配置している。またJTS C(滋慶トータルサポートセンター)とも連携し、様々なケースに対応している。	精神疾患の相談件数が重度化しており、医療機関との連携が必要なケースもある。その際保護者の理解が得られないケースの関わりが難しい。	精神保健福祉の専門の専任や非常勤講師と連携を組み対応策を検討していく。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	留学生窓口として教職員を配置。担任など複数人で留学生支援チームを結成し週1回の情報交換の場を作り、学習、学生生活、私生活等での問題解決を行なっている。	国家試験対策、職場の受け入れ態勢整備。	本部の国際センター、グループ校で留学生受け入れ実績の多い学校へのヒアリング等。		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3	日本学生支援機構の奨学金利用者は増えており、学生サービスセンターが手続、返還案内等行っている。また保護者への説明として保護者会を実施している。学校独自の奨学金は今のところ制度としてはない。生活保護家庭や児童養護施設出身者に向けて制度を整えていく必要がある。	生活保護や児童養護出身者など経済的困難者に対して個別に対応しているが、制度として整えていく必要がある。	特になし		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	保健室の専門職員は居ないが、看護師、救命救急士、介護福祉士の有資格者がおり、対応している。健康診断も毎年実施している。	2次検診対象者の受診率が100%にならない。	該当者の共有を実施。担任からの受診促進。		
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3	学校運営の寮はないが、提携寮が男女それぞれ2つある。実際には埼玉県外からの入学は少なく、寮の利用も多くはない。	特になし	特になし		
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	SCWKワイヤーは高齢者施設や地域行事等で公演を年10回程度行っており、また学生スタッフ活動も地域活動を行い貢献している。	特になし	特になし		
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	「一人ひとりを大切に」をキーワードに保護者との個別面談などを適宜実施している。保護者との連携の必要なCC科では保護者会を年4回実施している。その他の学科は全体説明としての保護者会よりも個別面談を重視している。また、成績通知は年2回発送している。	協力が得られない家庭への対応。カウンセラー含め学科職員で共有して学校の出来ることを探りながら対応する。	カウンセラー含め学科職員で共有して学校の出来ることを探りながら対応する。		
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	2	卒業1年目の卒業生に対してキャリアアップ勉強会を実施している。再就職支援は個別に実施しており、成果を上げている。	同窓生主体の同窓会とはなっておらず、学校が主体となっている。	年度ごと、あるいは地域ごとと同窓会組織をつくり会合をもつなどして情報交換する。		
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	埼玉県老人福祉協議会と連携して「高齢者福祉研究大会」を実施。また「卒業研究発表会」や「介護福祉教育学会」など業界連携をしている。	特になし	特になし			
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	社会人入学者は毎年3割程度おり、学校案内や説明会で対応している。図書室には司書を配置し自習環境も整えている。	特になし	特になし			
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	指定規則と同等またはそれ以上の設備、備品を整えている。設備については点検、整備含め関連会社が行っており計画的に改修も行っている。	特になし	特になし	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・防災については学生の意識向上が最も大切なことであると考えます。 また、昨今の情勢を鑑みると防犯対策についても今後は訓練項目として求められてくる懸念を感じられる。 ・学校内等の環境美化が出来ており、明るい照明や騒音等もないことから、授業に集中できる環境が整っていると感じます。 地域との繋がりがとてもよく取れている学校であると感じていますので、防災訓練等がある場合、地域との合同開催による連携強化が出来ると、更に良い訓練になると思います。またその際に、ベルエポックの学生による、非常食のアレンジレシピを行うなども良いのではないかと思います。 ・防災対策は最重要課題だと思う。地域の防災拠点になると共に帰宅困難学生への支援体制を構築して頂きたい。
	6-23-1 学外実習、インターシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	実習については、学科ごとに実習要綱を作成し、また実習指導者には事前に学校で研修を実施している。また巡回指導でも実習指導者と連携を図り学生を指導支援している。学校行事は学園祭や地域行事、運動会など学生主体で運営を行っている。	特になし	特になし		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	2	埼玉ベルエポック製菓調理専門学校と連携して防災訓練を実施している。施設の耐震化などは関連会社に管理してもらい適正である。非常時には2校のインカム(トランシーバー)で連絡を取りながら対応できるようにしている。	非常時の食事や防災グッズについて保管場所の関係上、必要最低限の準備となっている。	さらに、保管場所含め校舎使用について検討していく。		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災マニュアルは学園として規定している。また携帯用の防災マニュアルも全学生に持たせて危機管理を行っている。非常時持ち出し用の名簿も職員室内に置いてある。	特になし	特になし		

7 学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	埼玉県専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいて募集活動を行っている。募集目的のみならず福祉、保育職の正しい理解を得るための高校訪問、説明会も参加している。	介護分野への高等学校教員の正しい理解が得られない。 (介護は3Kの仕事のような認識)	高校訪問を中心に福祉・保育分野の正確な情報提供を実施。また、教育委員会や校長会をも巻き込んだ福祉・保育分野の仕事説明会を関連団体や県の所管と連携し実現をめざしている。	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士科も国家試験受験になったため、入学する生徒の学力レベルも無視できず、入学者の充足も大変だろうと察します。 ・看護師がその地位を勝ち取ったように、介護士も待遇改善を訴えつつ、自身のスキルを磨いて、社会に必要不可欠な存在としてその価値性を高めていく必要があるのだが現状ではその道のりは極めて厳しい。 ・介護職のイメージアップが重要である。魅力ある職場にするためにどうしたら良いか、関係者全てがそれぞれの立場で考え直し、少しずつでも施策を実行することがまず一歩と考える ・人材不足は大きな課題。とりわけ、今後は益々困難になっていくことが予想されるため、児童期に向けた取り組みが期待される場所である。 ・昨年度、試験的に学校と現場が連携して少子化や介護業界のイメージ悪から、まだまだ、親御さんや進路の先生の誤解したイメージがあり、介護業界へ進む子供たちへ間違った指導をしている話を聞くことがあります。現在現場では、様々な活動により、職場環境や賃金を改善している会社が増えてきていると思いますので、そのようなところと連携して、高校や中学校訪問、介護教室などのイベント等を通して、イメージアップを図っていければ良いのではないかと思います。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	3	上記同様、ルールに沿った募集を行っている。入学案内のほか、社会福祉士養成科やキャリアデザイン・コミュニケーション科は、冊子を作り、就職分野や進路先の理解、教育を中心とする学校の理解が得られるよう工夫をしている。	特になし	特になし		
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	募集要項に選考基準や入試方法は記載されており、入試ごとに判定会議を行って公平な審査が行われている。	特になし	特になし		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	数値データは毎週行われる運営会議でチェックしながら分析、対策を行っている。財務を担う関連会社とも適宜打ち合わせを行い実学生数と財務の数字をチェックしている。	特になし	特になし		
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	入学初年度のみならず、卒業までにかかる学費諸費用について募集要項に明示している。また諸費用算定にあたっては、事前に見積もりをとり、それに基づいた徴収額を学内で決定している。	特になし	特になし		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	入学前の3月末までの申し入れに対して学費返金は明示し、実際に返金している。	特になし	特になし		
8 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	2	5か年の中長期事業計画で収支計算を行っている。またその予算執行状況を四半期ごとにチェックし修正しながら適切な予算運用をしている。設備投資についても財務状況を見ながら5か年計画を立てている。	定員充足はしていない。介護福祉士については分野の魅力の適正な広報、また学科内容のイノベーションを図りながら顧客目線で教育を改革していく。	介護福祉士については分野の魅力の適正な広報、また学科内容のイノベーションを図りながら顧客目線で教育を改革していく。	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保が困難な時代。人材確保(学生の受け入れ)による収益の確保が必要なため、学生の募集と並行して考えていく取り組みが重要である。そのための方策課題の検討が必要のように思える。 ・少子化や介護のコースでは資格卒業と同時に取得できなくなったなど、今後さらに入学生の減少が気になる場所です。上記の内容と同様になってしまいますが、福祉分野においてはイメージアップ、学校全体としては、埼玉福祉学園や各学校ごとの特色づくりや、その特色を発信力が重要になってくると思います。評価者として上記に記載した内容とは矛盾してしまいますが、学業の部分だけではない取り組みについても力を入れていかなくてはならないと感じます。 財務状況について、財務諸表の大口目程度でも確認できると評価がしやすいと思いますが可能でしょうか？ ・適正な管理の下に運用されていると判断できる。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3	関連会社による財務の監査、分析を行い適正な運営をしている。またその連携によって学校としても予算執行を管理している。	特になし	特になし		
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	学科の変更などに伴う募集の費用や設備投資など5か年で計画を立て運用している。	特になし	特になし		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	「予算=決算」を目標に関連会社とも連携し透明性の高い予算執行を行っている。学園内監査も行い、適正に運用されているかチェックを受けている。	特になし	特になし		
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	会計監査は学校の利害関係者に対して法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために第三者による監査人(公認会計士及び監事)が監査を実施し、監査報告書の作成、理事会及び評議員会で報告している。	特になし	特になし		
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	情報公開規定、情報公開マニュアルを整備しており、それに基づいてホームページでも情報開示している。	特になし	特になし		

9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	コンプライアンス委員会、個人情報保護委員会を設置し、法令遵守に努めている。 学園本部にはセクシャルハラスメントの相談窓口がある。 学生にはソーシャルメディアの適正な使用方法を含めコンプライアンスに関する教育を行っている。	特になし	特になし	2.8	・教員や学校職員との関りを通じて、豊かな人間性や学生への愛情が感じ取れ、その人間力から順法精神は信頼できる。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	就業規則に個人情報の取り扱いに関する規定も設け、全職員に対して個人情報保護の研修を実施している。 学生についても現場実習における個人情報保護の授業を実施している。	特になし	特になし		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	自己点検自己評価委員会を設け、年に1度点検会議を実施している。またその結果を学校関係者評価委員会で報告し意見をもらい改善している。	特になし	特になし		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	3	ホームページで学校評価、財務状況、監査結果など公表している。	特になし	特になし		
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	学則や規定は毎年見直し修正のある場合は届出を出している。教育課程編成委員会は2年ごとに任期を設け適切な方に評価していただいている。	特になし	特になし		
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	ホームページで公表している。	特になし	特になし		
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	ホームページ上で学校情報の公開、さらにツイッターやブログで教育活動を公開している。	特になし	特になし		
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	埼玉県老人福祉施設協会と協同で高齢者福祉研究大会を実施している。 委託訓練生を積極的に受け入れている。(H28年度9名、H29年度19名入学) 精神保健福祉協会や自治会の会合場所として教室を提供している。 滑川総合高校に福祉授業に講師派遣を行っている。 クラーク高校とは年間を通じて福祉授業を本校で開講している。 ケアマネの講座など実施している。 地域清掃、パトロールに職員、学生で積極的に参加している。	特になし	特になし	2.6	・地元自治会からの評価が非常に高いようで嬉しく思います。 ・大変評価できる取り組みがなされていると思える。特に他団体と連携しながらの取り組みは重要。 ・学校が自治会に入っている他、手話通訳や慰問・イベント等、学生を巻き込んだ地域・社会貢献が積極的に出来ていると感じます。 国際交流については、親御さんの経済的な背景から海外研修への参加者が少なくなってきたことですが、逆に留学生の受け入れによる国際交流という逆転の発想はとても良いと感じました。今後さらに充実した取り組みが出来ていけることを期待しています。 ・優秀な人材の輩出こそ学校としての社会貢献であると個人的には思っている。それ以外の社会貢献を要求することは酷であるとも思える。しかし時代の要請であるなら更に取り組んでいただきたい。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	2	ウエストフロリダ大学(UWF)と日米福祉学会を実施している。 また、UWFからは日本での交流会も実施している。 また国際教育は建学の理念の一つでもあり、海外研修、国内で行う国際講座など実施している。	留学生の受け入れについては体制含め今後整えていく。	学園の国際センターとの連携、留学生受け入れ実績校との連携を通じて外国人教育を構築していく。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	ボランティア専用の掲示板を設け、学生の参加を積極的に促している。	学生のボランティア活動の実績や実態把握までできていない。その情報の共有もできていない。	ボランティア報告書を提出してもらいファイリング、データ化する。		